

カタルーニャを多元的に考える ―独立をめぐる想像力とリアリティ―

カタルーニャが政治的主体性を失った1714年から今年で300年。独立機運が高まりつつあるカタルーニャが、当面の切実な課題としている「独立」の想像力を日本語圏にいるわたしたちはどう考えることができるのでしょうか。

東京外国語大学は、カタルーニャ語・文化の普及を使命とするラモン・リュイ院との交流協定を締結しました。これを記念し、カタルーニャ独立の意義と可能性、そして問題点について多元的に討議するシンポジウムを開催いたします。

日時

2014年 3月20日(木)13:00～ 入場無料

場所

東京外国語大学 研究講義棟 115教室

【プログラム】

- 挨拶 立石博高 (東京外国語大学長)
アルベル・ロヨ (カタルーニャ公共外交評議会事務局長)

基調講演

- 「問題としてのカタルーニャ」 樺山紘一 (印刷博物館館長)
- 「21世紀における国家システム：変革の視座」 エステル・バルベ (バルセロナ自治大学教授)

第I部 《独立の想像力、政治の構想力》

- モデレーター 岩崎稔 (東京外国語大学国際社会学部長)
- 「作家たちはバルセロナをめざす」 柳原孝敦 (東京大学准教授)
- 「Fictionのなかの独立／井上ひさし『吉里吉里国』の政治学」 成田龍一 (日本女子大学教授)

第II部 《国民国家とそこに包摂された諸民族体 (ナショナルイティーズ)》

- モデレーター 篠原琢 (東京外国語大学教授)
- 「カタルーニャ・ナショナリズムとその歴史的背景」 八嶋由香利 (慶応義塾大学教授)
- 「近年のカタルーニャ自決運動―その起源と背景」 ジュスト・カスティージョ・イグレシアス (大阪大学大学院)
- コメンテーター／スコットランド研究の立場から 富田理恵 (東海学院大学准教授)
- ／カタルーニャ研究の専門家として 奥野良知 (愛知県立大学准教授)

- 結びの言葉 ユク・ロペス・ビダル (カタルーニャ放送大学准教授)

通訳つき／ノートテイク有り (ご希望の方はお問い合わせください)

交通アクセス <http://www.tufs.ac.jp/access/> 最寄駅：西武多摩川線多磨駅徒歩5分 / 京王線飛田給駅よりバス

問い合わせ先
東京外国語大学海外事情研究所
042-330-5405 ifa@tufs.ac.jp

主催
カタルーニャ公共外交評議会
東京外国語大学国際社会学部
東京外国語大学海外事情研究所

共催
東京外国語大学社会・国際貢献情報センター
スペイン史学会

institut ramon llull
カタルーニャの言語と文化

DIPLOCAE
Public Diplomacy Council of Catalonia

